

天野山金剛寺が日月山水図を特別公開

～斬新な感覚を備えた重要文化財の屏風～

1. 概要

11月3日（火・祝）に河内長野市内にある天野山金剛寺で重要文化財 紙本金地著色 日月山水図(しほん きんじちやくしょく じつげつさんすいず)が特別公開される。



2. 重要文化財 紙本金地著色 日月山水図

6曲1双(6枚1セットで構成された屏風が、2つで対をなしている)の屏風で、作製された年代については、室町時代とする説と桃山時代とする説がある。大和絵(やまとえ)特有の伝統的技法が駆使されながらも、独創性の高いダイナミックな表現がなされており、現代に通じる斬新な感覚を備え、このようなことから国指定重要文化財に指定されている。

描かれている題材は四季(しき)山水図(さんすいず)とも呼ばれるもので、四季の変化が描かれている。右側の隻の右端には松と満開の桜で春の様子、続いて山の中に金箔で日輪が表現され、夏が描かれている。左側の隻の右端には、まず海の向こうに雪を被った山が見られる冬が、続いて左端には紅葉の秋景色が描かれ、その中に滝が見られる。

江戸時代の「河内(かわち)名所(めいしょ)図会(ずえ)」には、金剛寺の屏風のことが書かれており、「雪村筆一双、元信筆一双、土佐光信女筆一双」とあるのは、このうちいずれかが日月山水図に相当すると考えられている。金剛寺では、このような山水図は仏教の儀礼で用いられることが多く、この屏風も伝法灌頂(かんじょう)の儀式に用いていたようである。

※大和絵 日本の伝統的な絵、ただし、その意匠は年代的に変化する。一方で中国から伝わった唐絵がある。

3. 公開日時等

- (1) 公開日時 平成27年11月3日(火・祝) 9:00～16:00
- (2) 拝観料 600円

問い合わせ 河内長野市教育委員会ふるさと交流課
(☎0721-53-1111)